第2回「ふれあいトーク」を開催しました

2月18日（土）、東地区活動拠点センターを会場に、2回目の「ふれあいトーク」を開催しました。

「ふれあいトーク」は、市長と市民の皆さんが稚内市のまちづくりや行政サービスについて、気軽に語り合っていただく意見交換の場で、今回は14名の方にご参加いただきました。

いただいた貴重なご意見・ご提案は、これからの市政へ反映していきます。

◆「ふれあいトーク」で意見交換された内容（一部を抜粋）

▽災害時の対策について
▽高齢者がふれあう場（サロン）の設置について
▽公共施設の障がい者等への対応について（トイレ、エレベーターなど）
▽除雪、ロードヒーティングについて
▽観光に対する取り組みについて
▽開業医の誘致について

※詳細については、後日、ホームページなどで公開します。

◆第3回「ふれあいトーク」開催

3月17日（土）、14時から、富岡・はまなす地区活動拠点センターで開催します。

これからも会場等を変えて、定期的に開催する予定です。

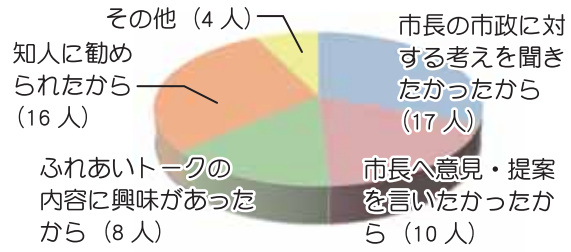
ぜひご参加いただき、皆さんの意見をお聞かせください。

問い合わせ／
市政策経営室政策経営グループ
☎23―6187

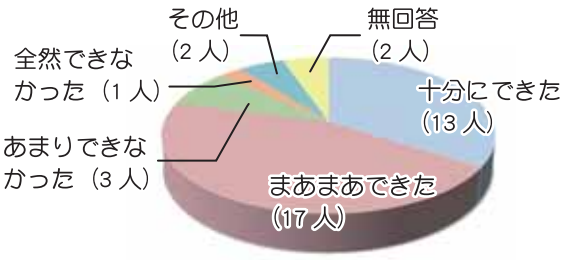
市政に対する活発な意見交換が行われました

第1・2回「ふれあいトーク」参加者アンケート結果〈回答者数38名〉

■参加を決めたきっかけは何ですか？（複数回答あり）



■市長と十分に意見交換を行うことができましたか？



■参加者からの意見

- 若い人（中・高校生）とのトークを始めてほしい
- とても充実した時間だった。市長と話ができる機会がなかったので良かった。
- 地域の方々のお話を聞くことができ、いるだけで楽しかった。
- 少人数だったので良く話をすることができた。
- 行政の取り組みに市長自ら、一つ一つ丁寧に答えてもらい、市民の一人として自覚を新たにしていきたいと思った。

シリーズ 広げよう！男女共同参画

第9回 男性の子育て参加について 実践者インタビュー

子育ては男性も女性も共同で行うべきものですが、男性にとっては、日々、仕事等に追われ、やむを得ず関わることができない実態があると考えられます。

今回は、そんな中でも、父親たちが集まり、学校と地域をつなぐ役目を果たすべく活動をしている丸山修（まるやまおさむ）さんにお話しを伺いました。

●丸山さんの経歴

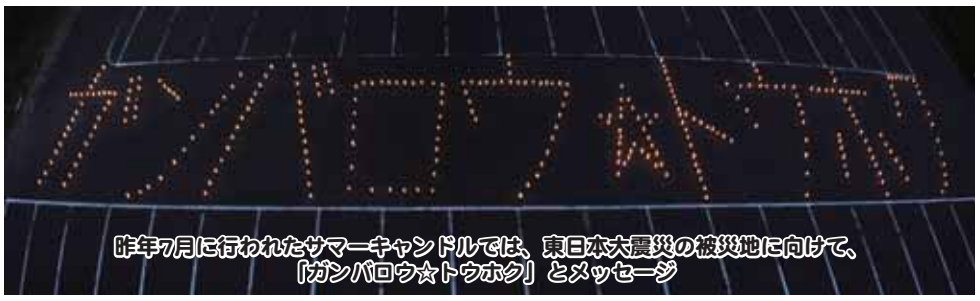
稚内市出身、南小学校、南中学校、稚内大谷高等学校を卒業後、海上自衛隊を経て、㈱桜井電業所に就職、現在に至る。二人の姉妹に恵まれ、長女が潮見が丘中学校へ入学時、「父親の会」と出会い、入会。平成17年からはPTA会長を3年間務める。次女が卒業した平成20年に「父親の会OB会」を設立し、現在も活動を続けている。

❖「父親の会OB会」を設立したきっかけは？

子どもが学校を卒業すると、PTA活動も自動的に卒業します。しかし、それまで築き上げたものや親同士のつながりを消したくなく、引き続き、「子どもたちや学校支援のために何かできないか」と考え、OB会を設立しました。現在、賛同した14名の父親たちで活動しています。

❖どんな活動をしていますか？

現役の父親の会のサポートに徹した活動をしています。現役とOB会の共同で学校の農園整備や古紙回収をはじめ、サマーキャンドルやスノーキャンドルを路上に並べ、地域を活気づける取り組みも行っています。また、昨年末には、道内各地で同じような活動を行う父親たちがつながり合い、情報交換を行うため、「父親ネットワーク北海道」を立ち上げたところです。


昨年7月に行われたサマーキャンドルでは、東日本大震災の被災地に向けて、「ガンバロウ☆トウホク」とメッセージ

❖活動して良かったこと、苦労したことは？

仲間と共に語り合い、喜び合いを共有できることに魅力を感じています。また、大人として、仲間として、親としての連携にもつながっていると思います。

苦労を感じたことは一切ありません。むしろ自分たちが一番楽しんでやっています。誰からの押し付けではなく、自主的な活動であり、自分たちができることから無理をしないように活動するようにしています。

会員の皆さんも人との出会いや活動を通じての達成感に喜びを感じることができるので続けているのだと思います。

丸山修さん

❖男女共同参画についてどう思いますか？（特に男性の子育てについて）

男性の育児参加は必要なことだと思います。昔は、一家の大黒柱は父親でしたが、今の時代は男女どちらでも成り得ます。育児や子ども教育、親の教育は家庭内で男女が協力し合うべきだと思います。

❖最後に父親の皆さんへのメッセージをお願いします。

昔からの基本だと思いますが、子どもの背中を見て親は成長できません。親の背中を見て子どもたちは育ちます。

子どもたちは親を見ています。積極的に子育てに参加し、親同士の連携を広めていきましょう。

問い合わせ／
市社会教育課社会教育グループ
☎23―6520